

高知県感染症発生動向調査（月報）

2021年1月

高知県感染症情報センター

高知県衛生環境研究所

TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/>

E-mail : 130120@ken.pref.kochi.lg.jp

全国情報

第1週(1月4日～)から第4週(～1月31日)までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国での1月の上位6疾患の合計は16.83で12月の4週換算値16.89と比べて横ばいであった。新型コロナウイルス感染症対策の活動自粛と衛生管理により日常的感染症は少ない状態が続いている。流行時期を迎えているはずのインフルエンザも15位0.04で12月の15位0.04と比べて横ばいであり、流行の兆しは認められない。

上位6疾患は、6位が水痘からRSウイルス感染症に変っただけで、どの疾患も先月と比べて小幅な動きであった。1位は感染性胃腸炎で10.50(12月1位4週換算値10.19)、2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で2.56(同2位2.80)といずれも横ばいだった。3位は突発性発疹で1.49(同3位1.34)とわずかに増加した。4位は咽頭結膜熱で0.86(同4位1.07)とわずかに減少した。5位は流行性角結膜炎で0.79(同5位0.76)と横ばいだった。6位はRSウイルス感染症で0.63(同7位0.46)と少し増加した。

〈新型コロナウイルス感染症 COVID-19〉

COVID-19の流行が始まって1年を越えた。世界の患者数は図1左に示すように、2月3日には1億386万人を、死亡者は225万人を超え、感染拡大は続いている。寒冷期を迎えた欧州で再び感染拡大し、行動規制の措置は延長を余儀なくされている。患者数を国別でみると、1位米国、2位インド、3位ブラジル、4位英国、5位ロシア、6位フランス、7位スペイン、8位イタリア、9位トルコ、10位ドイツである。主要先進7か国(G7)のうちで10位内に入っていないのは日本とカナダだけである。

変異ウイルス株については、現在3種類が注目されている(国立感染研HP: <https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/10144-covid19-34.html>)。いずれもウイルス受容体を含むスパイク蛋白に関わる遺伝子変異を起こした株である。①Variant of Concern(VOC)-202012/01: 英国での急速な感染者増加に関与したと推測され、伝播のしやすさを最大70%増加させる。この株が重症例を増加させるかについては意見が分かれており、ワクチン効果に差異が生ずるかについても不明である。②501Y.V2: 南アフリカ保健省が2020/12/18に公表した新規変異株で伝染性が5割程度高いとされるが、重症化をもたらすとの根拠は乏しく、ワクチン効果への影響についても不明である。③501Y.V3: 1月6日にブラジルから日本に入国した4人から検出された株で、重症化やワクチン効果への影響については不明である。いずれの変異ウイルス株も既に日本で検出されている。慎重にその意義を判断することが肝要だが、その一方で、これら変異株の蔓延を防ぐ水際対策などの迅速な対応も行われている。

日本の患者数を図1右に示す。11-12月以降に増加の勾配が急峻となり、その加速度は世界のデータ(図1左)を上回っている。患者数や入院重症者数も日ごとに記録を更新する事態となり、感染爆発overshootの危機が迫った。低温乾燥といった気候変化の関与も疑われる。2月3日時点の国内の感染者は393,836人、死亡者は5,912人に達した。

都市部を中心に重症者、死者の増加をみとめ、医療体制が逼迫している。1月7日に4都県で緊急事態宣言が発出され、1月13日に11都府県に措置拡大された。この措置は、栃木県を除く10都府県で3月7日まで延長されることになった。

死亡率の高さは患者年齢に依存している。図2左に日本での年齢階層別の死亡率を示す。高齢ほど重症で致死率が高いことは明らかである。図2右に示すように、男性は女性に比べて死亡率が高い。高齢者の感染者数増加は死亡率増大に直結するので、年代層別の患者比率を監視すべきである。図3に示すように、夏までは、20～30代の感染者が増加し、高齢者の感染は抑制されていた。しかし、11月以降は年代ごとの増加率に差がなくなり、その結果として高齢感染者の絶対数が増加している。なお、図に表示された厚労省HPの各数値は、個々の集計方法の違いから数に不一致があるので、あくまで参考として参照されたい。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	1週	2週	3週	4週	計
1	感 染 性 胃 腸 炎		2.22	2.53	2.91	2.84	10.50
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.53	0.57	0.71	0.75	2.56
3	突 発 性 発 疹		0.36	0.37	0.37	0.39	1.49
4	咽 頭 結 膜 熱		0.26	0.15	0.23	0.22	0.86
5	流 行 性 角 結 膜 炎		0.23	0.21	0.17	0.18	0.79
6	RS ウ イ ル ス 感 染 症		0.08	0.10	0.21	0.24	0.63

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の1月の上位6疾患の合計は10.54で12月の4週換算値15.10と比べて減少し、全国よりも少なかった。手足口病とヘルパンギーナの遅い流行は終息に向かって順位を下げ、総数の減少をもたらした。

1位は感染性胃腸炎で4.79（12月1位4週換算値4.22）でわずかに増加したが全国よりも少なかった。2位は同率で2疾患が並び、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は1.39（同4位1.99）と減少して全国よりも少なく、突発性発疹が1.39（同5位1.31）と横ばいで全国と同等だった。4位は手足口病で1.32（同2位3.78）と減少し、5位がヘルパンギーナで0.97（同3位2.74）と減少したが、いずれも全国よりも多かった。6位は水痘で0.68（同7位0.71）と横ばいで全国よりも多かった。

〈高知県におけるCOVID-19〉

高知県におけるCOVID-19の月別患者数を図4に示す。昨年12月に入って報告が急増し、511人/月に昇った。12月に5件、1月に1件のクラスターが発生した。A病院では患者29人と職員11人、B病院では患者7人職員4人、C病院では患者6人職員3人が、D飲食店では12人の感染者、E高齢者施設では利用者7人職員1人、F教育施設では学生29人職員3人の感染がそれぞれ報告された。図5に12月1日以降の日毎の公表感染者数と感染経路不明者数を示す。一部の臨床検体は国立感染研に分析を依頼しているが、今のところ県内では上記の変異株は検出されていない。2月5日時点で感染者は855人、死亡は17人となった。

浜田知事は、県の対応ステージを、12月2日に「注意（黄）」から「警戒（オレンジ）」に、12月9日に「特別警戒（赤）」に引き上げた。対策が奏効して1月は12月よりも患者数が減少したので、1月22日には「警戒（オレンジ）」に引き下げた。図5にみる感染経路不明患者数は少数ではあるが持続しているので、感染源を根絶やしにするには程遠い状況であり、引き続き油断は許されない。寒冷乾燥の季節は感染拡大の主因のひとつである。マスク、手洗い、三密の回避と基本に立ち返り、併せて部屋の換気も励行したい。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	1週	2週	3週	4週	計
1	感 染 性 胃 腸 炎		1.18	1.21	1.29	1.11	4.79
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.43	0.39	0.21	0.36	1.39
	突 発 性 発 疹		0.39	0.43	0.32	0.25	1.39
4	手 足 口 病		0.25	0.39	0.25	0.43	1.32
5	へ ル パ ン ギ ー ナ		0.07	0.00	0.36	0.54	0.97
6	水 痘		0.32	0.04	0.18	0.14	0.68

図4.高知県のCOVID-19月別患者数(人)

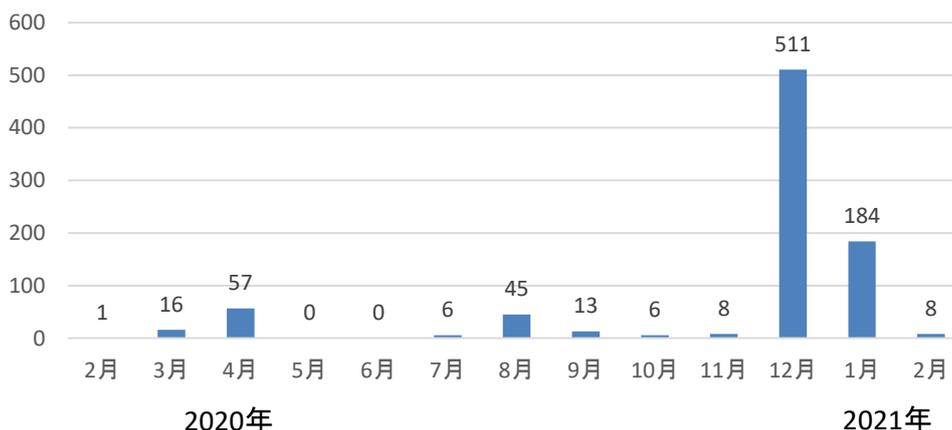
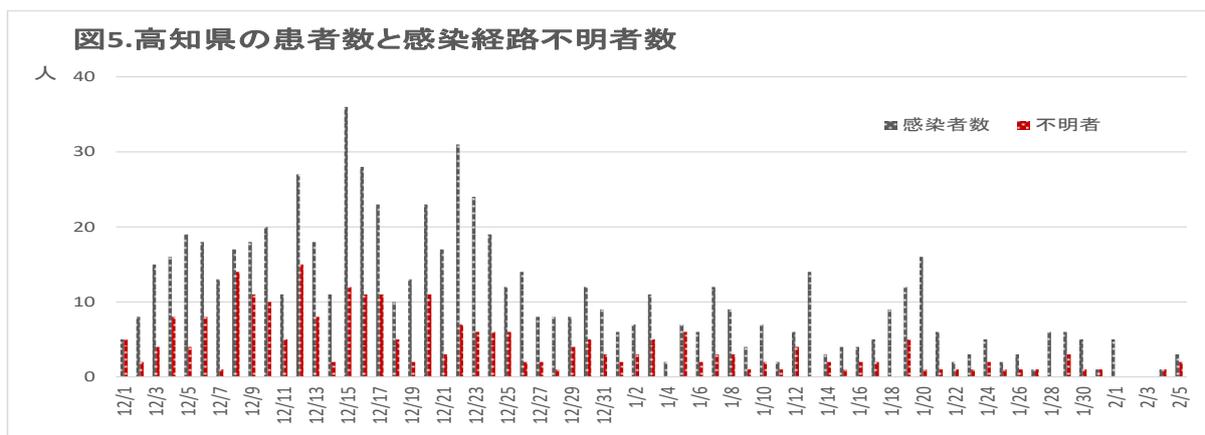


図5.高知県の患者数と感染経路不明者数



2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告なし。

3. 主な疾患の発生状況

2020年は、過去10年間で最少報告数を記録した感染症が続出した。インフルエンザ、感染性胃腸炎、水痘、ヘルパンギーナ、RSウイルスがこれに該当し、新型コロナ対策、衛生管理のためと思われる。

1) インフルエンザ

報告数 0名(12月 0名)。2019-20年シーズンは対コロナ自粛の影響もあってか小さな流行に終わり終息した。本年9月に1名が報告されたが10月以降に報告はなく、ウイルスも検出されていない。全国で9月18名、10月106名、11月141名、12月に328名、1月は266名が報告され減少に転じていて、散発的発生であり未だ流行には至っていない。県下で1月にインフルエンザの報告がないことは過去10年でも初めてである。COVID-19流行との兼ね合いでインフルエンザの流行動向には例年以上に注目が向けられているが、2020-21年の流行シーズンは存在せず春を迎える可能性も出てきた。

2) 咽頭結膜熱

報告数 15名(12月 21名)。1月としては平年並みの報告数だった。須崎、幡多、高知市、中央東から表記の順に多く報告された。12月1日に提出された検体からAdenovirus 1型が1件検出された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 39名(12月 70名)。1月としては過去10年間で最も少ない報告数だった。県下全域から報告があり、とくに多かったのは高知市、中央西、幡多であった。

4) 感染性胃腸炎

報告数 134名(12月 148名)。2020年2月は平年並みだったが、3月以降は、過去10年で最低の報告数で推移している。県下全域から、とくに高知市、幡多、中央東から多く報告された。

5) 水痘

報告数 19名(12月 25名)。2014年10月からの予防接種定期化の効果で少ない数で推移している。安芸以外から報告され、須崎、幡多で特に多かった。

6) 手足口病

報告数 37名(12月 132名)。2020年は7月と10月にピークがあり二峰性であったが、流行規模は平年並みで大きくはない。遅い終息に向かっていると思われる。須崎以外の全域から報告され、幡多、中央西、高知市から多く報告された。2020年はCoxsackievirus A16が流行株で、昨年採取された検体から計34件が検出されている。

7) 伝染性紅斑

報告数 3名(12月 4名)。2019年7月以降は多い報告数で推移していたが、2020年4月以降は減少している。高知市から報告された。

8) 突発性発疹

報告数 39名(12月 46名)。想定内の変動で推移している。

9) ヘルパンギーナ

報告数 27名(12月 96名)。本来は初夏の感染症だが、2020年は遅れて流行した。須崎以外の全域で報告され、高知市、安芸から特に多く報告された。流行が遅かったために11-1月は過去10年で最多だったが、通年でみると大きな流行ではなかった。11月にCoxsackievirus A4型が2件、A10型が1件検出された。

10) 流行性耳下腺炎

報告数 1名(12月 4名)。過去10年で2018年に並んで最も少ない。高知市から1名報告された。

11) RSウイルス感染症

報告数 0名(12月 0名)。2020年は3月以降減少し、例年ならば流行期であるにも関わらず、11月から異例のゼロが続いている。コロナ自粛・衛生管理の効果なのか流行がない。ただし宮崎、鹿児島、佐賀、熊本ではまとまった報告数がある。

12) 流行性角結膜炎

報告数 0名(12月 4名)。2020年の年間報告数は過去10年間では、2017年に並び最少であった。

13) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(12月 2名)。1年に10名前後の報告で推移していたが、2017年6名、2018年5名、2019年2名、2020年は4例であった。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因とする小児例の報告は1例もなく、成人例も近年減少している。

14) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(12月 0名)。年間20-30名台の報告数で推移していたが、2017年7名、2018年1名、2019年5名、2020年は2名と報告が少ない。

15) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 1名(12月 1名)。高知市から1名が報告された。

基幹定点の月報疾患

16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 26名(12月 21名)。平年並の推移である。中央東、高知市、安芸から報告された。

17) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(12月 0名)。2014年は計4例、2015年、2016年は各1例、2017年は2例、2018年は1例、2019年は2例の報告があり、2020年は0例であった。

高知県における月別全数報告疾患（令和3年1月）

類型	病名	報告月	総計
		1月	
2	結核	1	1
5	ウイルス性肝炎	1	1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	1
	梅毒	8	8
	破傷風	1	1
	総計	14	14

高知県感染症情報 月報（63定点医療機関）

2021年 1月

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ									5,807
小児科	咽頭結膜熱		1	7		3	4	15	21	36
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	7	17	5	1	7	39	70	341
	感染性胃腸炎	7	28	63	7	6	23	134	148	422
	水痘		1	3	2	7	6	19	25	28
	手足口病	1	1	13	7		15	37	132	53
	伝染性紅斑			3				3	4	69
	突発性発疹	1	6	18	10	2	2	39	46	33
	ヘルパンギーナ	1	9	17				27	96	4
	流行性耳下腺炎			1				1	4	10
	RSウイルス感染症									47
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎								4	3
STD	性器クラミジア感染症			4				4	2	2
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ								2	2
	淋菌感染症								1	
基幹	細菌性髄膜炎								2	1
	無菌性髄膜炎									
	マイコプラズマ肺炎			1				1	1	11
	クラミジア肺炎（オウム病は除く）									
	感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）		1					1		1
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1	6	19				26	21	19
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
計		13	60	166	31	19	57	346	579	6,889
前月		21	119	300	38	20	81			
前年同月		203	1,328	2,527	764	525	1,542			
小児科定点数		2	7	9	3	2	5			

高知県感染症情報 月報 (63定点医療機関)

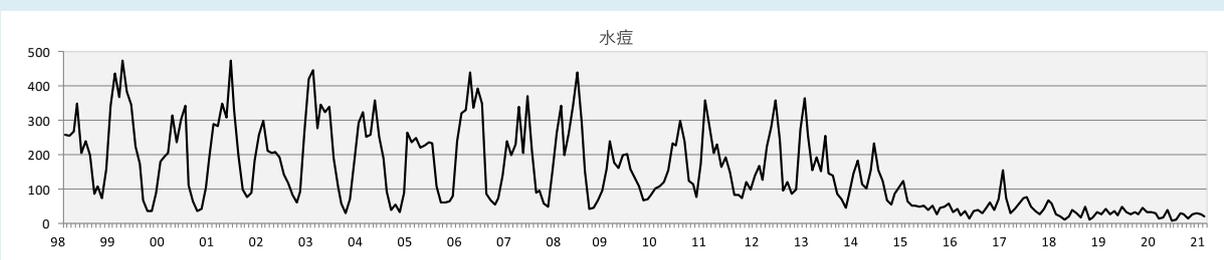
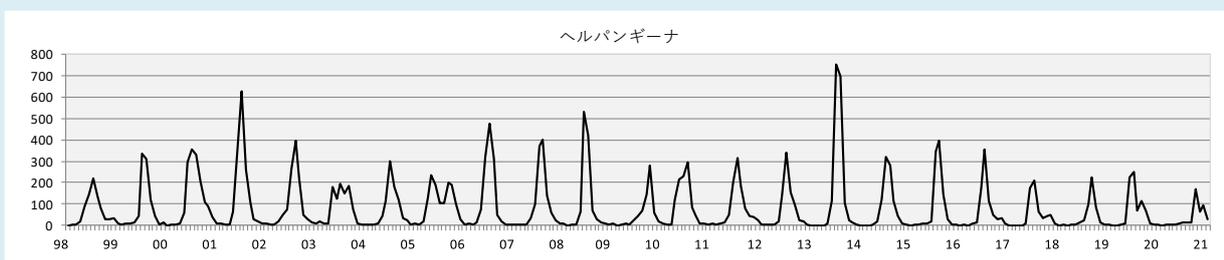
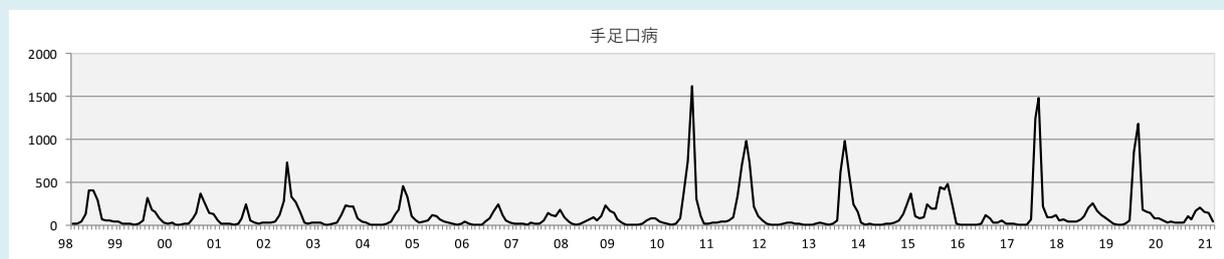
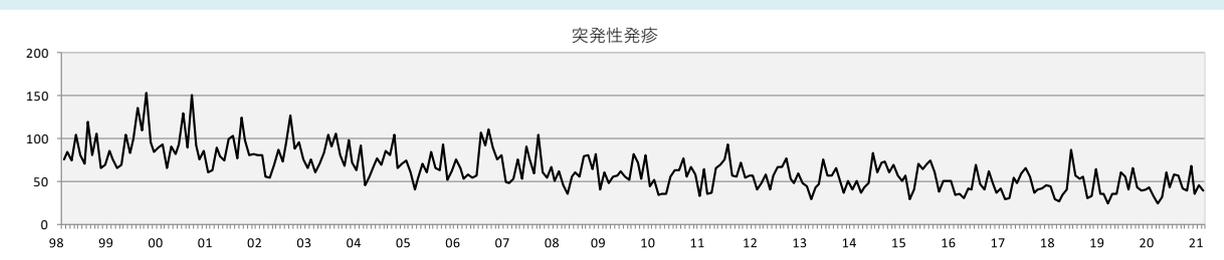
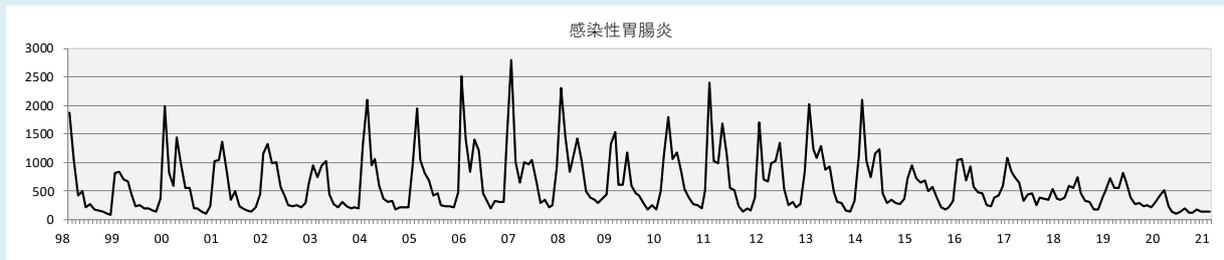
2020年

12月

定点当たりの人数

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ									120.97
小児科	咽頭結膜熱		0.14	0.77		1.50	0.80	0.54	0.75	1.19
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	1.00	1.89	1.67	0.50	1.40	1.39	2.49	11.37
	感染性胃腸炎	3.50	4.00	7.00	2.33	3.00	4.60	4.79	5.28	14.07
	水痘		0.14	0.33	0.67	3.50	1.20	0.68	0.89	0.94
	手足口病	0.50	0.14	1.44	2.33		3.00	1.32	4.72	1.77
	伝染性紅斑			0.33				0.11	0.15	2.31
	突発性発疹	0.50	0.86	2.01	3.33	1.00	0.40	1.39	1.64	1.10
	ヘルパンギーナ	0.50	1.28	1.88				0.97	3.42	0.14
	流行性耳下腺炎			0.11				0.04	0.16	0.33
	RSウイルス感染症									1.57
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎								1.33	0.99
STD	性器クラミジア感染症			2.00				0.67	0.33	0.33
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ								0.33	0.33
	淋菌感染症								0.17	
基幹	細菌性髄膜炎								0.26	0.13
	無菌性髄膜炎									
	マイコプラズマ肺炎			0.20				0.13	0.13	1.40
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスである ものに限る)		1.00					0.13		0.13
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1.00	6.00	3.80				3.25	2.63	2.38
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
小児科定点分計		6.00	7.56	15.76	10.33	9.50	11.40	11.23	19.50	155.76
前月		10.50	15.86	30.76	12.64	10.00	15.80			
前年同月		62.00	128.38	169.89	165.70	165.25	201.29			

注目される疾患別月別推移



臨床診断名	病原微生物	2020年												2020年総	2021年1月									
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月											
流行性耳下腺炎	Mumps virus		2	3													5							
	Rhinovirus												1				1							
	計		2	3									1				6							
無菌性髄膜炎	Coxsackievirus B4																0							
	Coxsackievirus B5		1														1							
	計		1														1							
RSウイルス感染症	Respiratory syncytial virus A																0							
	Respiratory syncytial virus B																0							
	計																0							
水痘	Human herpes virus 7			1													1							
	Varicella-zoster virus				2												2							
	計			1	2												3							
突発性発疹	Human herpes virus 6			1													1							
	計			1													1							
その他	Adenovirus 1		2														2							
	Adenovirus 2									2			1				3							
	Adenovirus NT									1							1							
	Coxsackievirus A4		1											1			2							
	Coxsackievirus A16		1	1													2							
	Cytomegalovirus									1		1					2							
	Echovirus 30			1													1							
	Epstein-Barr virus			1													1							
	Herpes simplex virus 1															1	1							
	Human herpes virus 6		6	6						1		1	2				16							
	Human herpes virus 7		4	1							1	1	1				8							
	Human metapneumovirus			2													2							
	Human parvovirus B19		1														1							
	Influenza virus A H1pdm09		2														2							
	Influenza virus B /Victoria		1														1							
	Norovirus GII NT			1													1							
	Parechovirus 1										1						1							
	Respiratory syncytial virus A		1	2													3							
	Rhinovirus		2	1	2	1					2	2	2	3	2		17							
	Sapovirus genogroup unknown		1														1							
計		22	16	2					6	3	5	6	4	3		68								
総計			77	50	6	0	0	0	11	4	12	12	11	5		189								
類型	病名	報告年																			総計			
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	1
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	1
3	コレラ		1				1						1											
	細菌性赤痢		11	4	2		3	1	2	2										2				
	腸管出血性大腸菌感染症		11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	2	4	9	1
	腸チフス			1						1													1	
	バラチフス		2																					
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	4	4	10	1	0
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3					3	1				2	
	E型肝炎												1		1								2	1
	オウム病				1		1													1				
	Q熱	1	1	2				1																
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	7	5	5	9	6
	つつが虫病			9	5	2	4	5	7	6	2	5	4	2	5	8	3	3	4	11	2	3	3	
	デング熱													1			3	2	1				2	
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	6	13	10	23	
	日本脳炎	1	1	1						1	1	1												
	マラリア								2					1									1	
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	6	9	7	8	
レプトスピラ症										1	4	2	1		1				1					
	計	20	21	26	12	23	21	19	16	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	30	29	36	41	0
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	3			7	3	2	5	3	3		
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3			1			2	1	1	2
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																	7	19	21	22	21	20	10
	急性弛緩性麻痺																					1	2	
	急性脳炎										1	1	2	5	1	3	1		1	1	1		2	1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3			6		1	3				2			2	1	1	3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	1	1				1		1		1	3		1		3	5	6	2	2
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	9	1	6	
	ジアルジア症		1	2	1						1				1	1						1		
	優養性インフルエンザ菌感染症																	1	5	3	4	7	3	1
	優養性肺炎球菌感染症																1	4	12	16	18	14	22	11
	水痘（入院例に限る）																		2	1	1	3		3
	髄膜炎菌性髄膜炎										1													
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	23	19	20	35	8
	播種性クリプトコックス症																				1	3	5	
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1			4	3	3	1		2	3
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1						1													
百日咳																					1	1		
風しん										1	1				4	9	1					3		
麻しん											5													
	計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	94	268	251	112	13
新型	新型インフルエンザ																							
	計																							
動物	鳥インフルエンザ																							
	計																							
	総計	61	48	67	42	51	53	47	61	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	238	398	400	214	14